

『基礎ゼミナール』を活用した授業計画と授業実践報告  
—学習成果到達度テストの分析結果を中心に—

野々村 憲

A Report on Lesson Planning and Practice of Lessons in “Basic Seminar” Class  
—Mainly on The Result of “Learning Result Arrival Degree Test” and The Analysis—

Ken Nonomura

I teach the subject “Basic Seminar” from 2010. I set learning target of this lecture in raising “social common sense” and “basic Academic Skills”. I carried out “Learning Result Arrival Degree Test” to measure the basic Academic Skills of this University student by “Basic Seminar” in 2011. The subject that I carried out is “Japanese test” and “Mathematics A test”. By this report, I reported the lesson plans and the lesson practices mainly on the result of “Learning Result Arrival Degree Test” and the analysis.

キーワード

基礎ゼミナール Basic Seminar, 基礎学力 Basic Academic Skills  
学習成果到達度テスト Learning Result Arrival Degree Test

所属

広島文化学園大学 Hiroshima Bunka Gakuen University  
学芸学部 Faculty of Arts and Sciences 子ども学科 Department of Childhood Studies

## 1. 本学子ども学科学生の現状と課題

本学学芸学部子ども学科は、平成21年12月認可を受け、平成22年4月からスタートした。

筆者は開学当初から「国語」「日本語表現Ⅰ」「保育内容（言葉）」等の授業を担当している。授業を担当して感じることは、学生の国語力を中心とした基礎学力において、学力の高い学生と低い学生との間に顕著な学力差が見られるということである。

この実態を明らかにすべく、学生への実態調査を試み、データを取ってみた。

筆者は、平成22年度担当科目「基礎ゼミナールⅠ」において日本漢字能力検定の模擬試験を実施した。

模擬試験は、標準レベルを漢検3級（中学校卒業程度1608字）に設定し、このレベルに対して、現在学生がどの程度のレベルにあるのかを把握することを目的として実施した。

模擬試験問題は、日本漢字能力検定協会の実施した漢字検定の過去問題3級を使用した。対象学生はゼミ生18名（No1～No18）。

以下、実施した試験結果である。試験結果は200点満点で高得点順に並べ、その学生の当大学への受験時の入試種別も合わせてデータ化した（表1）。

表1から試験結果の得点において個人差の開きが大きいことがわかる。試験の合格ライン（140点）に到達しているのはNo1～No6の6名、全体の約3割である。

模擬試験（200点満点）において、得点120点（60%）を目安とすれば、120点以上の学生が半数（No1～No9）に対し、120点未満の学生が半数（No10～No18）である。この結果を見てもわかるとおり、個人差の開きは明確であり、漢字能力の高い学生と低い学生とに二極化していることがわかる。

No1の学生のように、高等学校で漢検2級

表1 漢検模擬試験結果

No	得点(200満点)	入試種別
1	188	一般
2	163	推薦
3	156	AO
4	154	一般
5	150	推薦
6	147	推薦
7	135	AO
8	125	推薦
9	120	推薦
10	110	AO
11	103	AO
12	86	AO
13	72	AO
14	69	AO
15	66	AO
16	58	AO
17	55	推薦
18	46	推薦

\*漢検3級合格ライン：140点以上

に合格し本学で準1級に合格したというような能力の高い学生がいる一方、No16～No18の学生のように、総合得点200点に対し、60点（30%）未満の学生もいるというのが実態である。

模擬試験結果と、その学生が本学への受験した入試種別を対応させてみると、明らかな傾向が見られる。すなわち、得点120点（60%）以上の学生（No1～No9）の入試種別は推薦入試、一般入試での入学者が大半であり、得点120点（60%）未満の学生（No10～No18）の入試種別はAO入試での入学者が大半であるということである。このことから、学生の基礎学力と入試種別との間に高い相関関係があることがわかる。

このデータをもとに推察すれば、学生の基礎学力の実態の原因として、現行入試制度によるところが大きいと考えられる。大学にとってAO入学試験を始めとした現行入試制度のあり方は目下の大きな課題事項であろうが、実際のところ、学生を入学させたからには、学生を指導し学力を高めるということは大学教員の責務である。

近年、全国の大学でも、学生の基礎学力をめぐる問題は増加しており、学生の基礎学力対策として「リメディアル教育」を教育課程に導入する大学が増えている（\*注）。

本学の現状は、開学当初の教育課程にリメディアル教育を組み込んでいないため、学部全体としてリメディアル教育に取り組む体制が整っているとはいえない状況である。この状況に対して、今後、教育課程を見直していく必要があると考えられる。

筆者は、本学の現行の教育課程においてリメディアル教育を展開していける方策はないかと考えた結果、子ども学科初年次科目「基礎ゼミナール」の運用による学生指導を計画し、実践を試みた。

（\*注）リメディアル教育の現状～大学アンケートから～ Between 2001. 7・8

## 2. 「基礎ゼミナール」の概要とその運用状況

### (1) 「基礎ゼミナール」概要

学芸学部子ども学科では、初年次開講科目として「基礎ゼミナールⅠ」（前期）「基礎ゼミナールⅡ」（後期）（いずれも卒業必修）を開講している。

この講義の実践目標は、初年次にあたり、建学の精神・教育理念を理解した上で、本学科で学ぶ目的を明確にし、大学での学び方を身につけることである。講義はセミナー&チューター制度（\*注）のもと、教員と学生とが対話を通し、信頼関係を築きながら、少人数指導での演習形式で行っている。

### （\*注）セミナー&チューター制度

本学の教育方針を具現化するための教育指導体制の一つである。学生生活や修学上の様々な問題の相談相手となるのがチューターである。チューターは、学生とつながりの深いゼミナール担当の教員が授業を中心として指導を展開している。

### (2) 平成23年度「基礎ゼミナール」の運用状況

#### ①授業計画

「基礎ゼミナールⅠ」（前期）・「基礎ゼミナールⅡ」（後期）を有効活用し、大学生に求められる基礎学力と社会常識を教授するという教育目標を立て、授業計画を立案した。

学生にとっての指導上の重要度を念頭におき、社会常識（特にマナー）を徹底して指導し、その後に基礎学力を高めていくという流れを作り、「基礎ゼミナールⅠ」（前期）では社会常識を習得する授業計画、「基礎ゼミナールⅡ」（後期）

では基礎学力を習得する授業計画を組み立てた。

「基礎ゼミナールⅠ」(前期)の授業計画は以下のとおりである(表2)。

表2 「基礎ゼミナールⅠ」授業計画

回	講義内容
1	授業ガイダンス
2	社会常識(マナー)の基本
3	【*1】幼少期におけるしつけ
4	立居ふるまい(1)姿勢・おじぎ
5	立居ふるまい(2)装いと立居ふるまい
6	【*2】言葉づかい(1)先生としての敬語
7	言葉づかい(1)先生としての電話応対
8	手紙のマナー
9	【*3】俳句入門
10	食事のマナー
11	冠婚葬祭のマナー(1)結婚式・披露宴
12	【*4】冠婚葬祭のマナー(2)葬儀
13	冠婚葬祭のマナー(3)年中行事
14	【*5】社会人としての着こなし
15	社会人としてのビジネス・マナー

【\*1】～【\*5】小テスト実施

「基礎ゼミナールⅠ」では、教科書として毎時間筆者が作成した書き込み式学習プリントを配布し、講義を進めた。また、マナー指導ということで、視聴覚教材を効果的に使用したいと考え、必要に応じて、DVD教材を使用した。学習成果を確認するために、15回の講義の中で、5回の小テストを実施した。

「基礎ゼミナールⅡ」(後期)の授業計画は以下のとおりである(表3)。

「基礎ゼミナールⅡ」は基礎学力を高める目的で授業計画を立てた。基礎学力の中でも特に、中核となる科目として「国語」「数学」を指導することとした。

授業をすすめるにあたり、教科書ならびに学習評価に関して検討した結果、株式会社旺文社の「学習成果到達度システム」(\*注)を利用することにした。

(\*注) 学習成果到達度システム(旺文社)

旺文社は、長年培ったテスト実績とノウハウを生かし、大学生・短大生の基礎学力スキルアップのためのテキスト(日本語・英語・数学・物理・科学・生物・コミュニケーション力・思考力)を作成した。この

表3 「基礎ゼミナールⅡ」授業計画

回	講義内容
1	授業ガイダンス
2	語句の定義(1) / 演習問題
3	語句の定義(2), 対義語 / 演習問題
4	語句の状況, 熟語の完成 / 演習問題
5	短文の完成, 語句の用例 / 演習問題
6	会話文, 類義語 / 演習問題
7	漢字読み, 漢字書き / 演習問題
8	到達度テスト(日本語)
9	数と式 / 演習問題
10	方程式, 不等式 / 演習問題
11	関数 / 演習問題
12	図形 / 演習問題
13	順列, 組み合わせ / 演習問題
14	到達度テスト(数学A) / 演習問題
15	まとめ

テキストによる学習後、学習成果(到達度)を確認するために考案されたのが、学習成果到達度テストである。実施したテストを当社に返送すると、テスト結果として、個人別学習到達度測定結果が返送されるので、そのデータをもとにして、各自、自分の基礎学力の現状を客観的に判断することができるし、チューターは個別指導ができるというメリットがある。

授業の前半(第1回～第7回)で国語テキストの内容を教授した後に、学習成果到達度テスト(日本語)を実施した。授業の後半(第9回～第13回)は、数学テキストの内容を教授した後に、学習成果到達度テスト(数学A)を実施した。

学習成果の評価は、毎時間に実施した演習プリント、ならびに、宿題プリントの提出状況と学習成果到達度テスト結果によることとした。講義で使用した教科書ならびに試験は以下のとおりである。

・教科書

『大学生・短大生のための国語テキスト』

(旺文社)

『大学生・短大生のための数学テキスト』

(旺文社)

・試験

『学習成果到達度テスト(日本語)』(旺文社)

『学習成果到達度テスト(数学A)』(旺文社)

## ②実施状況

平成23年度「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」は、前年度と比較し、社会常識（特にマナー）の習得、大学生として必要とされる基礎学力の習得という明確な目標を設定したため、学生にとって明確な学習への動機づけができたと考えている。

また、15回の講義内容に、授業内容の理解度を確認する意味で行った小テストの実施により、学生の授業に対する集中度も以前より高まったように感じる。小テスト結果のデータを集計することにより、いままで以上に、ゼミ学生一人ひとりの学習への取り組み状況が見えてくるようになった。

## ③学習成果到達度テスト結果とその分析

平成23年度「基礎ゼミナールⅡ」で実施した学習成果到達度テスト（日本語テスト・数学Aテスト）の結果とその分析を行った。

学習成果到達度テストは、800点満点というスコアで採点され、その獲得スコアにより、学力レベル（中1レベル～高3レベル）が判定される。

○日本語テスト結果：受験者数19名

・出題分野

- 〔1〕 ①漢字の読み  
②漢字の書き  
③熟語の完成
- 〔2〕 ④語句の定義1  
⑤語句の定義2  
⑥対義語  
⑦類義語
- 〔3〕 ⑧会話文の完成  
⑨語句の状況  
⑩語句の用例  
⑪短文の完成

以下、受験した19名のスコアにより判定された学力レベル別データである(グラフ1)(表4)。

グラフ1

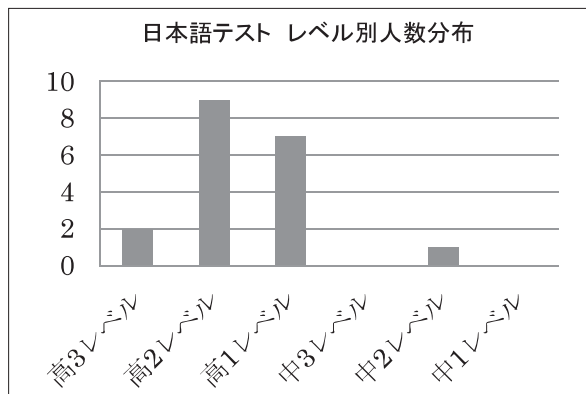


表4

レベル	人数
高3レベル	2
高2レベル	9
高1レベル	7
中3レベル	0
中2レベル	1
中1レベル	0

○数学テスト結果：受験者18名

・出題範囲

- ① 数と式
- ② 方程式と不等式
- ③ 関数
- ④ 図形
- ⑤ 順列と組合せ・確率

以下、受験した18名のスコアにより判定された学力レベル別データである(グラフ2)(表5)。

グラフ2

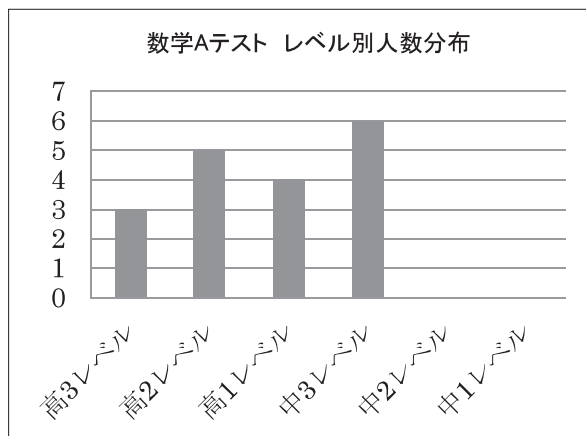




表5

レベル	人数
高3レベル	3
高2レベル	5
高1レベル	4
中3レベル	6
中2レベル	0
中1レベル	0

日本語テスト結果と数学Aテスト結果のレベル別人数分布を比較すると、基礎学力レベルにおいて、中学レベルと判定された学生が、国語テストは1名であるのに対し、数学テストは6名もいることがわかる。

この結果から、今回の学習成果到達度テストを通して、ゼミ学生の基礎学力として、国語力以上に、数学、数理的能力の低さという現状が明らかになった。

さらに、受験者全員の出題分野別得点結果を見ると、日本語テストでは、どの分野においても標準以上（解答率60%以上）レベルに達しているのに対し、数学テストでは、出題範囲①数と式 ②方程式と不等式、は標準レベルに達しているが、③関数 ④図形 ⑤順列と組合せ・確率、は標準レベルに達していない。

数学は系統的学習により学習理解を深める傾向の強い科目である。この出題分野別得点結果を見ると、大学入学前の教育における数学の系統的学習がしっかりと定着していないのではないかと推測される。

以下は、日本語テストと数学Aテストの合計得点を、高得点順に並べたデータである（表6）。

表6において、日本語テスト、数学Aテストそれぞれ、スコアにおいて高2レベル以上の学生の得点結果に網掛け表示をした。

表6から、数学Aテストにおいて高2レベル以上と判定された学生の大部分が、日本語テストにおいても高2レベル以上と判定されているという両者の高い相関関係がわかる。

一方、日本語テストが高2レベル以上と判定された学生の約50%は、数学Aテストにおいて高2レベル以上に到達していない。

この結果から考察すれば、ゼミ学生の国語力と数学、数理的能力を平行して高めるための必

表6

No	総得点	日本語	数学A
1	1285	587	698
2	1270	608	662
3	1260	537	723
4	1208	638	570
5	1164	610	554
6	1122	610	512
7	1087	690	397
8	1083	549	534
9	1050	576	474
10	1042	693	349
11	996	503	493
12	995	585	410
13	969	553	416
14	873	569	304
15	857	585	272
16	816	464	352
17	653	439	214
18	492	201	291
19	384	384	0(未受験)

\*日本語：高2レベル以上（スコア568～800）

\*数学A：高2レベル以上（スコア481～800）

要条件は、国語力の習得以上に、数学、数理的能力を高めることにありと考えられるのである。

### 3. 平成24年度「基礎ゼミナール」

#### (1) 位置づけと方向性

平成23年度に実施した学習成果到達度テストの結果を分析することにより見えてきた課題を念頭におき、平成24年度「基礎ゼミナール」の学習計画を再編成することとした。

平成23年度「基礎ゼミナールⅠ」は、社会常識の中でも特に「マナー指導」に特化してしまい、幅の狭い授業内容になってしまったという点が反省材料である。また、「基礎ゼミナールⅡ」では、数学の授業内容において、系統的学習という観点が弱かったように感じる。

このような反省材料をもとに、平成24年度「基礎ゼミナール」の学習目標を以下のように定めた。

- ・平成24年度「基礎ゼミナールⅠ」学習目標  
大学生として必要とされる社会常識を幅広く学ぶ。

- ・平成24年度「基礎ゼミナールⅡ」学習目標  
大学生として必要とされる国語力ならびに数学力を、系統的学習を通して学習を深める。

## (2) 授業計画

平成24年度学習目標を定めた上で、年間の授業計画を立てた（表7）（表8）。

表7 「基礎ゼミナールⅠ」授業計画

回数	授業内容
1	コンピュータ履修登録
2	ガイダンス・授業「経済・金融の基礎①」
3	授業「経済・金融の基礎②」
4	授業「経済・金融の基礎③」
5	授業「企業組織とマネジメント」
6	授業「社会のしくみ①」
7	授業「社会のしくみ②」
8	授業「職場のコミュニケーション」
9	授業「第一印象・挨拶」
10	授業「効果的な話し方」
11	授業「敬語」
12	授業「接遇マナー」
13	授業「電話応対」
14	授業「交際業務①」
15	授業「交際業務②」
16	まとめ

表8 「基礎ゼミナールⅡ」授業計画

回数	授業内容	
1	国語・数学ドリル	後期ガイダンス
2	国語・数学ドリル	社会常識演習①
3	国語・数学ドリル	社会常識演習②
4	国語・数学ドリル	社会常識演習③
5	国語・数学ドリル	社会常識演習④
6	国語・数学ドリル	小テスト
7	国語・数学ドリル	社会常識演習⑤
8	国語・数学ドリル	社会常識演習⑥
9	国語・数学ドリル	社会常識演習⑦
10	国語・数学ドリル	社会常識演習⑧
11	国語・数学ドリル	小テスト
12	国語・数学ドリル	社会常識演習⑨
13	国語・数学ドリル	社会常識演習⑩
14	国語・数学ドリル	社会常識演習⑪
15	国語・数学ドリル	社会常識演習⑫
16		小テスト

平成24年度から、社会常識という学習内容を幅広く学ぶという学習目標を達成するために、以下の教科書を使用することとした。

- ・『社会常識検定テキスト』  
(全国経理教育協会 編著)

この著書は、全国経理教育協会が平成19年度から実施している「社会常識能力検定試験」のための学習テキストである。

検定試験の出題領域に合わせ、ビジネス社会で必要とされる社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目標に、内容がわかりやすく編纂されており、授業の教科書として適格であると判断した。

「基礎ゼミナール」の授業は現在進行中である。本年度立てた授業目標に対して、さらに自己点検・評価していきたいと考えている。